

令和6年度

事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

目 次

1	はじめに	1
2	郵政博物館の運営事業	1
	(1) 郵政博物館の展示活動等	1
	(2) 資料に関する情報提供、教育普及活動等	3
	(3) 近隣文化施設との連携	3
3	前島密賞の贈呈事業	4
4	通信文化の普及・発展事業	4
	(1) 会報「通信文化」の発行	4
	(2) 文化講演会等の開催等	6
	(3) 青少年ペンフレンドクラブ(PFC)への活動支援	7
	(4) 社会貢献活動の実施	7
5	土地・建物賃貸事業	7
6	会員に対する諸施策	7
	(1) 叙勲祝賀会の開催	7
	(2) 新年賀詞交歓会の開催	7
	(3) 記念品等の贈呈	7
	(4) 団体傷害保険等の取扱い	8
7	会員増加対策	8
8	役員会議等開催状況	9
	(1) 理事会	9
	(2) 評議員会	9
9	寄付の依頼	10
	(1) 会員への寄附の依頼	10
	(2) 一般寄附の募集	10
10	業務等の見直し	10
	「事業報告の附属明細書」はない旨の記載	10

1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人通信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

当協会は郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

収蔵施設については千葉県市川市 行徳郵便局内に「郵政博物館資料センター」を設置している。

2 郵政博物館の運営事業

郵政博物館は、郵政・通信文化の普及・発展に向け次世代の利用者との幅広い交流を図り、歴史的資料・知識を後世に伝えることを目的として、東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンして11年目を迎えた。

日本郵政(株)からの受託及び(一財)ゆうちょ財団、(一財)簡易保険加入者協会からの寄附により、「展示」、「収集・保存、調査研究」、「文化・教育普及、生涯学習支援」という博物館における3つの活動を行い、不特定多数の方にとって文化教養を磨く場、教育普及の場としての活動を行っている。

また、新たな取り組みとして、7月5日(金)から約1年間、常設展示場において日本郵便株式会社とSCRAP社とのコラボレーション企画として「リアル脱出ゲーム 郵政博物館と時を超えた手紙の謎」が開催され、好評を博した。

(1) 郵政博物館の展示活動等

ア 展示活動

押上展示場の常設展示室では、「心ヲツナグ 世界ヲツナグ」をコンセプトテーマとして、体験型のデジタル機器や映像手法などを使って郵政文化を楽しく体感できる展示としている。令和6年度は、「切手でみる中国の文化」「新しい朝がきた！—ラジオ体操展」等を開催した。

同展示場の企画展示室では、郵政・通信文化の歴史を伝承するとともに文化・学術・教育の発展への寄与を目的とした企画展を2回、「新収蔵資料展」やその年の年賀状を展示する「巳年年賀状展」等の展示を4回開催した。

令和6年度の押上展示場への入館者は49,980名(対当初計画104%)、開館日数は322日で、一日平均155名となった。

なお、前島記念館は7,075人、坂野記念館は5,179人、沖縄郵政資料センターは1,777人の入館者があり、郵政博物館全体で64,011人となった。

(ア) 企画展示室での開催状況

No	特別展名	期間	開催日数	入館者数(人)
企画展				
1	生誕 140 年記念 —乙女たちの夢—竹久夢二展	7 月 27 日～9 月 23 日	56	14, 115
2	魔女の郵便局	10 月 5 日～12 月 15 日	62	9, 742
企画展以外の展示				
1	新収蔵資料展	6 月 1 日～7 月 15 日	39	4, 747
2	巳年年賀状展	12 月 21 日～1 月 19 日	22	3, 522
3	東海道絵巻—憧れの旅路—	1 月 25 日～2 月 24 日	27	3, 981
4	スタンペックス 2025	3 月 29 日～3 月 31 日	3	901

(イ) 常設展示場及び多目的スペース等での主なイベント開催状況

No	主催者	イベント名	期間
常設展示場			
1	郵政博物館	常設展示場テーマ展示「切手でみる中国の文化」	6 月 29 日～9 月 23 日
2	郵政博物館	常設展示場テーマ展示「新しい朝がきた！—ラジオ体操展」	10 月 12 日～12 月 8 日
3	日本郵便株式会社 株式会社ティー・プロ・イノベーション	日本郵便 HondaDream 展	12 月 14 日～1 月 19 日
4	郵政博物館	常設展示場テーマ展示「ゆうちょの世界」	12 月 24 日～3 月 23 日
5	日本郵便株式会社 株式会社 SCRAP	リアル脱出ゲーム「郵政博物館と時を超えた手紙の謎」	7 月 5 日～1 年間
多目的スペース			
1	郵政博物館	GW ワークショップ「こいのぼりワークショップ」	4 月 27 日～5 月 6 日
2	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「第 7 回南方占領地のフィラテリー展」	6 月 8 日～6 月 9 日
3	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「東京ワンフレームチャンピオンシップ」	7 月 13 日～7 月 15 日
4	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「第 11 回ヨーロッパ切手展」	9 月 22 日～9 月 23 日
5	受信環境クリーン中央協議会	第 57 回「令和 6 年度受信環境クリーン図案コンクール」入賞作品展	10 月 18 日～10 月 30 日

6	(一財) ゆうちょ財団	NGO 海外援助活動助成に係る民間海外援助団体の活動 パネル展示	11月2日～11月12日
7	芸林晶子(工作のアッコ先生)	旅するポスト展	11月19日～12月15日
8	郵政博物館	あんな時代もあったね～チャックまと切手でみる昭和30年代	3月8日～3月23日

押上展示場以外では、前島記念館(新潟県上越市)、坂野記念館(岡山県岡山市)及び沖縄郵政資料センター(沖縄県那覇市)において、地域に縁の深い資料の展示活動を行っている。

イ 資料の収集・保存、調査研究活動

博物館活動の基盤で重要な活動となる資料の収集・保存活動は、収蔵資料のデジタル化の推進、ネット上等での公開など、昨今のネット情報社会に対応した取組みを継続しており、本年度は47件の収集を行った。そのほか未整理資料を対象とした整理業務を行い、37,561件のデータ入力を実施した。

また、調査研究については、発足して16年目を迎えた郵政歴史文化研究会等を通じ、研究者向けの学問的水準を維持する一方で、広く社会に研究成果を公開することを目指し、通信文化に関する研究活動を積極的に推進した。

(ア) 郵政歴史文化研究会の開催(第1～第6分科会)

(イ) 研究紀要の発行(第16号:令和7年3月発行)

(ウ) その他調査研究・修復・保存整理の実施等

(2) 資料に関する情報提供、教育普及活動等

収蔵資料に関して、報道関係者、他の博物館・美術館、ドラマ・映画制作会社、研究者等からの資料の撮影や閲覧、取材等に対応したほか、通信文化資料の有効活用のために、他の博物館・美術館・資料館に収蔵資料の貸出及び画像データ提供を行った。

また、教育・普及活動の一端として、博物館学芸員課程受講者を対象に博物館実習を行ったほか、日本郵政グループの社員研修等にも協力し、講義や見学研修などを行った。

No.	項目	件数
A	閲覧	40件
B	撮影・データ提供・掲載・放映	454件
C	資料貸出・貸出キット	69件
D	取材・照会回答	212件

(3) 近隣文化施設との連携

「すみだ北斎美術館」や東京スカイツリータウン・ソラマチとの連携等により、地域振興・活性化施策の推進を図った。

また、たばこと塩の博物館で開催された特別展「日常をつくる!企業博物館からみた昭和30年代」展において、すみだ企業博物館連携協議会として、各博物館がそれぞれの分野で資料の

選定、貸出、キャプションや図録原稿の執筆を行った。

3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流をはじめとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした通信事業の創始者である前島密の功績を記念し、文字コミュニケーション・情報通信・放送分野でその精神を伝承・発展せしめるために、昭和30年度に創設された。また、令和2年度（第66回）から、現在活躍し今後もなお一層の功績が期待される者を対象とした奨励賞を創設した。

以来、令和5年度までに同分野において顕著な功績のあった方々に対して、前島密賞は1, 210名・18団体、奨励賞は17名に贈呈して、その功績を称え顕彰するとともに文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

令和6年度の前島密賞（第70回）については、各推薦機関（総務省、日本郵政㈱、日本電信電話㈱、日本放送協会、電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、テレコムサービス協会、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟）からの推薦により実施した。

令和6年7月4日に募集要綱をホームページで公表するとともに、同年9月30日を締切日として推薦を依頼し、2回の選考委員会及び理事会決議を経て、前島密賞は30名（個人10名、2団体、共同研究18名）、奨励賞は個人5名（個人3名、共同研究2名）の受賞者を決定し、令和7年4月10日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。受賞者の氏名、功績概要等は、各報道機関に通知したほか、当協会のホームページで公表するとともに会報「通信文化」に掲載した。

4 通信文化の普及・発展事業

(1) 会報「通信文化」の発行

記事内容は、読者の関心の高い郵便局等での様々な社員の活躍や郵便局での取り組みなどを紹介した。また、郵政グループの経営関連の記事を増強したほか、マネジメントに関する記事も多く掲載した。

健康問題は、読者の関心が極めて高いことから、医師の鎌田實氏の執筆する「人生100年時代をどう生きるか」を引き続き掲載し、読者からは好評を得ている。また、読者への還元として、当選者に各地の名産品等が当たる「読者プレゼント」を引き続き実施した。

特集記事コーナーでは、著名人による講演会の内容を「岡野裕基金記念講演会」記事として紹介するほか、自然災害や社長インタビュー等も掲載し、毎回読者アンケートで好評を得ている。

なお、こうした会報編集に加えて、会報に掲載する広告の募集にも力を入れ、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。

年間12回 740, 400部発行（月平均61, 700部）

（敬称略）

発行月	特集記事	執筆者又は話し手
6年 4月	岡野裕基金記念講演会 「東日本大震災の教訓を繋いでいく」	東北大学災害科学国際研究所教授 今村文彦
5月	執筆 「共感力」	一般社団法人あしたの働き方研究所理事 小澤小百合
6月	岡野裕基金記念講演会 「コミュニケーションを考える～言葉の力、生きる力～」 第69回前島密賞奨励賞受賞者インタビュー 「CS推進リーダーとして地域に根付いた郵便局づくり」	アナウンサー、情報誌「りらく」編集長 渡辺祥子 名古屋長良郵便局（現・名古屋八幡郵便局） 堀場信宏
7月	第69回前島密賞受賞記念インタビュー 「神山町の文化が育む“神山まるごと高専”、そして未来へ」 執筆 「災害時のネット・SNSを使った情報収集・発信術」	学校法人神山学園（神山まるごと高専）常務理事 大南信也 聞き手 元通信文化協会理事 佐村知子 ITジャーナリスト・成蹊大学客員教授 高橋暁子
8月	執筆 「検索・SNSを味方につけて情報収集しよう」	ITジャーナリスト・成蹊大学客員教授 高橋暁子
9月	岡野裕基金記念講演会 「郵便局管理者及び支社社員に対するマネジメント講話」	日本郵便株式会社社外取締役 軒名彰
10月	インタビュー 「日本郵便(株)の明るい未来に向けて」	日本郵便株式会社社長 千田 哲也 聞き手・通信文化協会参与 壺井 俊博
11月	岡野裕基金記念講演会 「挑戦は、明日のへの力。」	株式会社かんぼ生命保険社員、車いすテニス選手 大谷桃子
12月	インタビュー 「かんぼの事業再生と成長戦略に向け描く道筋」	株式会社かんぼ生命保険社長 谷垣 邦夫 聞き手・通信文化協会参与 齋尾 親徳
7年 2月	執筆 「監督者が注意すべき危機管理、4つのポイント」 インタビュー 「九州支社と中華郵政の姉妹郵便局協定の締結」	著作家、経営戦略コンサルタント 鈴木博毅 日本郵便株式会社九州支社長 久田雅嗣
3月	執筆 「生産性の上昇による賃上げが必要」 岡野裕基金記念講演会 「人生を輝かせる～誇れる自分であるために～」	一橋大学名誉教授 野口 悠紀雄 元フリースタイル・モーグル日本代表 上村 愛子

(2) 文化講演会の開催等

当協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、全国各地において、「文化講演会」を11回、総数2,868人の参加を得て開催するとともに、手紙教室を103回、総数9,775人の参加を得て開催し、文化活動を行った。

文化講演会等開催状況

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加者数(人)
北海道	R6.10.3	「北海道のために ～選手として、経営者として～」	折茂 武彦 氏 (レバンガ北海道)	日本郵便(株)北海道支社 2階講堂(札幌市)	1,200
	R7.1.26	北海道吹奏楽団 「イル・ポスティエーノ」 コンサート	宮崎 則幸 氏 (イル・ポスティエーノ 代表)	札幌市生涯学習センター 「ちえりあ」ホール(札幌市)	440
東北	R7.1.11	「地方創生を考える」	菅野 大志 氏 (山形県西川町町長)	AER(アエル)30階ホール (仙台市)	137
	R7.1.14	「地方創生を考える」		山形国際ホテル 3階富士東の間(山形市)	62
東京	R6.9.27	CS・ES向上セミナー (笑顔講座)	川野 恵子 氏 (株)笑顔育代表取締役 員)	新宿郵便局9階大会議室	86
信越	R6.9.12	人生を輝かせる～誇れる 自分であるために～	上村 愛子 氏 (元フリースタイルスキー・モーグル 日本代表)	シャトレゼホテル長野 (長野市)	270
	R6.2.13	「主体的に考動し会社を 変革する」	神保 拓也 氏 (株)トーチリレー代表役 員)	シャトレゼホテル長野 (長野市)	170
東海	R7.1.25	生涯生活設計年金セミナー	安江 美和子氏 社会保険労務士・年金 コンサルタント	日本郵便(株)東海支社会 議室	205
	R7.1.26	生涯生活設計年金セミナー		静岡中央郵便局会議室	48
四国	R6.2.19	「善願は成就する」	海老塚 和秀(高知市 五台山・竹林寺住職、 四国八十八箇所霊場会 会長)	日本郵便(株)四国支社・ 講堂 (松山市)	100
九州	R7.2.7	「LGBTQ+」セミナー	清水 展人 氏	くまもと新都心	150

			(日本LGBT協会代表理事)	プラザ5階プラザホール (熊本市)	
--	--	--	----------------	----------------------	--

(3) 青少年ペンフレンドクラブ（PFC）への活動支援

ア 地域交流会活動支援

例年、手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、日本郵便(株)各支社において開催される「PFC会員交流会」の講師の手配、会場の確保、ノベルティグッズの提供などの支援を行っている。

イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク（会員会報誌 毎月1回発行）」は、PFC会員メリットの重要ツールとなっている。読者に「通信文化協会」のPRも兼ねて、抽選により毎回20名へ賞品（レターセット等）と会報「通信文化」を贈呈した。

(4) 社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を実施している。

5 土地・建物質貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き賃貸しているほか、文京区湯島にある新湯島ビルの2・3階各室を賃貸マンションとし、その入居管理・ビル管理等を委託して、円滑な運営と安定した賃貸収入を確保するとともに、計画どおりの借入金返済を行った。

6 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

(1) 叙勲祝賀会の開催

勲章を受章した本部及び関東・東京・南関東地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で、春と秋に祝賀会を開催した。また、北海道及び中国地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

(2) 新年賀詞交歓会の開催

東京都内と関東・南関東地域在住の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で1月20日(月)、KKRホテル東京において開催した。また、北海道、東北、東海及び中国地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

(3) 記念品等の贈呈

ア 会員へのサービスとして、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員1,711人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。

イ 米寿を迎えた個人会員260人に「米寿記念品」を贈呈した。

ウ 協会手帳を配付した（希望者のみ）。

(4) 団体傷害保険等の取扱い

通信文化協会会員及び郵政グループ社員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、次のとおりである。

【令和6年度における契約状況】

区 別	口・件数	保 険 料
団 体 保 険	61千口	583百万円
団 体 扱 保 険	5千件	273百万円

7 会員増加対策

令和6年度の会員増加対策については、新規入会の個人会員会費の1,000円割引キャンペーンの継続や定年退職者等のシニア会員への継続確保施策に取り組み、事業運営の基盤である会員の獲得に努めることとし、純増目標として、個人会員・法人会員(口数)を合わせた580人・口を設定した。

地方本部における勧奨活動体制としての運営委員会の開催や地域に密着した参与の積極的な勧奨活動体制の強化や会員サービスとしての会報掲載内容の充実を図るとともに、身近な「地方本部だより」の発行、会費の税制優遇の周知などにより、新規加入会員は2,223人となったものの、年度末の個人会員数・法人会員(口数)に対しては、602人・口(対目標▲103.8%)の純減となった。

会員の現況は次のとおりである。

区 別	令和6年度末	令和5年度末	増・減
個人会員(人)	60,624	61,227	603人減
法人会員(口)	904	903	1口増

(個人会員地方本部等内訳)

区 別	令和6年度末(人)	区 別	令和6年度末(人)
北 海 道	5,477	近 畿	8,491
東 北	5,914	中 国	4,424
関 東	5,452	四 国	3,238
東 京	4,402	九 州	6,647
南 関 東	2,166	沖 縄	525
信 越	4,046	本 部	553
北 陸	2,281		

東 海	7,008	合 計	60,624
-----	-------	-----	--------

8 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

代表理事の職務執行状況の報告は、第38回及び第40回理事会において行った。

(1) 理事会

○ 第38回理事会（令和6年6月3日）

- <議案>
- 1 令和5年度事業報告
 - 2 令和5年度決算報告
 - 3 特別寄附金の受入れ
 - 4 定時評議員会の開催

- <報告>
- 1 前島密賞選考委員の変更について 第70回選考委員委嘱
 - 2 職務の執行状況 R06.02～R06.05

○ 第39回理事会（令和6年6月21日）

- <議案> 代表理事の選定

○ 第40回 理事会（令和7年2月14日）

- <議案>
- 1 第70回前島密賞の授賞者決定
 - 2 令和7年度事業計画
 - 3 令和7年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
 - 4 内規の整備
 - 5 評議員会の開催

- <報告> 職務の執行状況 R06.05～R07.01

(2) 評議員会

○ 第25回 評議員会（令和6年6月21日）

- <議案>
- 1 議長の選出
 - 2 議事録署名人の選出
 - 3 令和5年度決算報告書
 - 4 評議員の選任
 - 5 理事の選任
 - 6 監事の選任

- <報告>
- 1 令和5年度事業報告書
 - 2 特別寄附金の受入
 - 3 職務権限規程の改正

○ 第26回 評議員会（令和7年3月10日）

- <議案> 1 議長の選出
2 議事録署名人の選出
3 令和7年度事業計画
4 令和7年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
- <報告> 1 第70回前島密賞の贈呈
2 内規の整備

9 寄付の依頼

（1）会員への寄附の依頼

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附（支援）をお願いしており、令和6年度は1,391人の会員から総額210万1,500円の寄附収入があった。

（2）一般寄附の募集

令和6年度から公益目的事業として実施している郵政博物館での展示活動や文化講演会等通信文化の普及・発展の更なる充実に活用することを目的に、会報及びホームページを通じ、広く寄附金を募集したところ、87人から104万3,000円の寄付があった。

10 業務等の見直し

協会の存立基盤である会員の確保・会費収入の確保は協会財務に連動する極めて重要な業務であるため、より一層、地方本部における執行体制の強化を図れる本部長等人材の活用・登用を推進している。また、本部・地方本部の協会内ネットワークを構築しITを積極的に活用している。

令和6年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和7年5月

公益財団法人 通信文化協会